

3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価（委員長とりまとめ）

- (1) 総合評価として、近年の県立図書館が目標をはるかに超える実績をあげている点を高く評価する意見が多数を占めた。入館者数・新規登録者数・個人貸出冊数等の指標の伸びもさることながら、閉ざされたイメージの県立図書館から明るい開かれた図書館に変身したこと、幼児・児童や主婦などにまで利用者層を広げ、すべての県民が利用できる態勢を作ったこと、これまでの県立図書館の役割を堅持しつつ、社会の変化や時代の進展に対応した、新たな図書館ニーズを追求しての事業展開に努めていることなどが、とわけ高く評価された。
- 反面、レファレンスサービスやウェブを通じた情報発信はまだまだ待ちの姿勢が強く、積極的に利用者にアピールしようとする姿勢がいまひとつ足りない、レファレンス機能や市町村等への貸出しなどの充実には、なお努力の余地がある、との指摘もあった。
- さらに、県内でも遠くに住む人々に対するサービスや広報の一層の充実を望む意見もあった。
- なお、市町村への貸出しの伸びを評価し、その理由として最近の蔵書構成の変化を指摘する意見もあった。遠隔利用者に対するサービス充実のために、市町村支援の一層の充実が望まれている。
- (2) 要望としてとわけ強かったのが郷土資料関係で、市町村立図書館や大学図書館との違いは、豊富な郷土資料の所蔵にあるのだから、郷土資料の収集にさらに努力すべき、郷土資料のデジタル化による収集も検討すべき、図書館の最大の財産である郷土資料をより一般県民に知らせるべく努めるべき、郷土資料の収集も評価の対象にすべき、といった要望が委員から寄せられている。
- 他方、郷土資料コーナーにサインがついて本がさがしやすくなったことや、中越地震、中越沖地震関係の資料収集等、郷土資料が充実していることを評価する意見もあった。そして、郷土資料が充実していることを県内に広報してほしい、郷土の文化、風俗等は一般にも関心のもてる分野ではないか、という意見もあった。
- 郷土資料関係では、ほかに、県立文書館が所蔵する郷土資料をデジタル化して、県立図書館で貸し出す方策も検討すべき、市民のために、また、県庁職員のために県立文書館所蔵の公文書の目録をHPで公開すべき、世界遺産登録をめざすために県立文書館にある佐渡の古文書等の資料の目録をHPで公開すべき、といった、インターネットの活用を促す意見も寄せられている。
- (3) 郷土資料をはじめ、県立図書館が持つ豊富で貴重な資料をもっとPRしてほしい、という意見も強い。さらに、図書館に人を呼び込む基本は、魅力的な資料と親切的な図書館員なので、選書とフロアワークに一層の力を入れてほしいとの要望もあった。
- 「メディアで紹介されることが多くなり、県立図書館のことが話題にのぼることは大変良い。これからもメディアを活用して広報、宣伝して行ってほしい。」との評価と要望は、多くの委員に共通するものだろう。
- (4) その他の意見・要望・提案には次のようなものがあった。
- ・ 以前「たとえば県立図書館主催の講座を他の市町村図書館を会場にひらいたらどうか」といったような提案をしたこともあったが、なんらかの方法で、実現できたらいいと思う。また、実際に、遠くから「県立図書館をたずねるツアー」のようなものを、企画することはできないか。
 - ・ こども、子育て世代を図書館に呼び寄せる一方で、やはり大学生、高校生の研究やレポート作成のために利用してもらうように工夫したり、働きかけるべきである。若い利用者を育てないと、図書館は先細りになる。
 - ・ 首都圏では、若者の間にカフェで行う読書クラブ、読書会が人気だという。県立図書館のミチココや、エントランススペースを利用し、青少年の読書クラブを開催してはどうか。
 - ・ ユースコーナーや展示等で別置される図書が増え、書架の資料が探しにくくなっているのではないか。工夫を望む。
 - ・ 県立図書館の継続的な発展と高い専門性維持のために、十分な人数の司書の確保と充実した職員研修を望む。
 - ・ 暫くこれ以上項目は増やさず、各コーナーの充実を図って行って欲しい。そして一時的なもので終わらず、継続していくことが何より重要と思う。